

中央大学工学部電気電子情報通信工学科同窓会

同窓会々誌



撮影：昭和41年卒 柳下 敏男氏

2013-10 第50号

平成25年度 総会・懇親会 は11月17日(日)

会誌第50号 目次

ごあいさつ	会長	飯塚 信市	3
電気電子情報通信工学科並びに専攻の近況報告	教授	橋本 秀紀	4
教職員の皆様の自由投稿広場			6 ~ 11
グルノーブル滞在記	教授	庄司 一郎	6
最近の学生気質	教授	白井 宏	7
ジョークが通じる条件	教授	築山 修治	8
秩父屋台囃子	教授	田村 裕	9
日本のエレクトロニクス復興	教授	竹内 健	9
8月15日と綺麗なノート	教授	橋本 秀紀	10
小林健一先生を偲ぶ	昭和33年卒	鈴木 轟八	12
会員からのお便り			13
特別寄稿「私のいきがい」	エース工芸社長	萩原 弘	17
修士論文発表会・同窓会賞			19
同窓会各委員会からの報告			20 ~ 22
同窓会財務委員会より	財務委員長	辻 正吾	20
同窓会ホームページ委員会より	HP委員長	門原 健男	21
同窓会事業委員会より	事業委員長	鳥巢 正義	21
同窓会総務委員会より	総務委員長	渡辺 聰	22
同窓会・会誌編集委員会より	会誌編集委員長	飯塚 信市	22
同窓会新会員のご紹介			23
弔 報			23
会費発行事業費の集計報告 (その12)			24
会計報告			25
編集後記	会誌編集委員長	飯塚 信市	26
同窓会総会・懇親会開催のお知らせ			27
会場案内図			28



会員の皆様、広く様々な分野にてご活躍のことと存じます。本年度より、中大電気同窓会会長に就任いたしました昭和47年卒の飯塚信市と申します。本会の主要事業であります同窓会誌第50号をお届けさせていただきます。

前会長より会長職を引き継ぎましてから、各研究室訪問による会員募集参加、学科・専攻の卒業式にての会長挨拶、同入学式にての会長挨拶、修士論文発表会の審査員参加催行、教職員歓送迎会の招待参加、同窓会ゴルフコンペの参加、学生主催夏合宿の参加、一連の常任幹事会の開催、同窓会誌の編集作業と言った一連のイベントを経験することにより、副会長でありましたときに比べ、同窓会なるものの実体がいよいよ深く見えてきたような気がいたします。

本来、大学の同窓会なるものは、卒業生が大学に対して有するある種の「郷愁」を共にして集う会であると、私は信じております。勿論、同窓生同士のビジネス交流のため、あるいは趣味の交流のため、と言った側面も否定はしませんが、それらはあくまでも副次的なものに過ぎません。では、そのような郷愁を引き起こさせるものはなんでしょうか。勿論、大学校舎を中心とする大学風景もあるでしょうが、なんとと言っても、在学中にお世話になった教職員の皆さんとの思い出でしょう。その思い出を共通とする卒業生同士が集い、さらに、それが卒業生同士の横の繋がりに発展していくと言うのが、同窓会の健全な姿でしょう。そのような訳で、我々、同窓会の運営に携わるものとしては、会員の動向のみならず、在学中にお世話になった教職員あるいは現役の教職員の皆さんの近況についても、積極的に会員の皆様に会誌やHPを通じて公報する義務があると思っております。

理想とすれば、中大理工電気の卒業生は、会誌やHPを見て郷愁を覚え、ふらりと、同窓会懇親会を訪れれば、そこにはお世話になった教職員がいつでも温かく迎えてくれると言う関係が築かれれば、同窓会の発展に繋がるのみならず、卒業生を温かく見守る大学として中大理工電気の評判となって、入学志望者にとって

も魅力の1つになり、大学の発展にも貢献するに違いありません。

斯かる観点から、本年度の同窓会活動におきましては、その実行にあたり、幾つかの配慮を致しました。先ず、同窓会会誌ですが、表紙には、本学卒業生であれば誰もが郷愁を覚えるであろう大学正門前の坂道をテーマとした風景写真を採用すると共に、掲載記事としては、新たに、＜教職員の皆様の自由投稿広場＞を設け、現任教職員の皆様の近況等を投稿していただきました。次に、同窓会HPには、会創設当時の先生方の奮闘ぶりを含む第1号から最新号に至る発行済み同窓会誌の全てを掲載（閲覧には巻末記載のID、PW必要）しました。さらに、本年度の総会は、教職員の皆様が出席されやすいように、土曜日をさけて日曜日（11月17日）に、また会場は交通の便の良い東京丸の内に設定いたしました。

なお、会誌本文中にてご紹介のように、本年度の総会・懇親会実行委員会は昭和57年卒により運営され、恒例の講演会としては、現役学生並びに平成年度卒業生の参加を期待して、テーマ「自動車の先進安全技術」（講演者：マツダ（株）車両システム開発部主幹 小川伯文氏）、及びテーマ「半導体メーカーで感じたこと、学生に伝えたいこと」（講演者：元ルネサスエレクトロニクス部長 古木勝也氏）が予定されております。したがって、昭和年代卒の会員は勿論のこと、平成年度卒の会員、さらには、現役学生の皆さんの広くご参加を期待しております。

最後に、我々、同窓会の運営に携わる役員、常任幹事等々は、同窓会の各種イベント催行や参加の経費（交通費、食事代、宿泊費等々）を、基本的には各自の手弁当にて賄っておりますが、それでも、同窓会誌発行や夏合宿における学生への同窓会賞授与等々のためには、毎年40万円程度の会からの出費は不可欠であります。一方、ご承知の通り、当会の固定的な収入は、新入会員（昨今15～20名程度）からの入会金（1万円／人）しかありません。そのような訳で、会員の皆様におかれましては、会誌発行业務費のご協力を重ねてお願いする次第でございます。



電気電子情報通信工学科 及び工学専攻の近況報告

電気電子情報通信工学科 教授 橋本 秀紀

平成 25 年度の学科および専攻の主任として、電気同窓会の皆様の日頃のご支援に対し感謝申し上げます。

昨年二本主任の近況報告(同総会報 49 号)から現在(2013 年 8 月)までの学科及び専攻の主な活動を時間軸に沿って報告致します。なお、学科のホームページは <http://www.elect.chuo-u.ac.jp/> です。学科及び専攻の詳細な紹介及び最新の情報が更新されておりますので参考にしてください。

2013 年 8 月時点で教授 11 名、准教授 2 名、助教 3 名、教育技術員 6 名及び職員 1 名で学科及び専攻を運営しています。教員などの詳細はホームページの学科パンフレットをご覧ください。顔写真も出ています。ただ、一部は update していないようです。

2012 年後期

2012 年 11 月 2 日から 4 日にかけて白門祭が開催され、本学科も各研究室が研究成果を展示し白門祭を盛り上げました。同窓会の会員諸氏も多数来校され母校の現状を見て回られました。見てわかる展示なので、皆様、是非母校へお出でください。

2013 年 1 月には、3 年生の実験のプレゼンテーションが行われました。各自、パワーポイントを用いて教員と多くの学生の前で実験結果を発表し、先生方の質問に答える訓練を行いました。前期後期の 1 年に亘って出席とレポート提出が課せられる厳しい必修科目ですが、4 年生の卒業研究及び修士研究へとつながるものでその教育効果は大変大きいものです。電気系の教育の柱の一つとなっています。

2013 年 2 月 22 日には 4 研究室(橋本研、竹内研、國井研、久保田研)合同の卒論発表会が開催されました。学部教育の総仕上げとして、各学生も正装を

して緊張をしながらも全力を尽くして発表に臨みました。また 2 月の間に各研究室での発表会が執り行われました。

2013 年 2 月 23 日には、修士 2 年生の修士論文発表会が開催され、真摯な質疑応答のもとに修士論文の審査を行いました。また、同窓会が 3 月の修了式で優秀な発表を表彰するので、本発表会に同窓会の方々が多く出席し優秀発表の審査を行いました。院生にとっては、グローバル化のもとで世界標準の修士研究が求められるなか、同窓会の先輩諸氏を前にした発表は大変有益だったと思われまます。しかし、同窓会から本専攻の研究水準に関して厳しいご指摘を受けるなど、専攻としては対処しなければならない問題が多々あることを改めて認識いたしました。一つの例ですが、学部、大学院とも学生が研究勉学に充てる時間が少ないのではないかと危惧しております。ニュースや書籍で日本の大学生が世界で一番勉強しないと指摘されるなど、グローバル化の中で世界標準からみたとき日本の高等教育は難しい状況にあるようです。日本国内で皆で勉強しなければ問題はなかったでしょうが、世界から優秀な方々が日本に来るとそのようなことは通用しません。

2013 年 3 月 24 日に飯塚同窓会会長にも御臨席頂き卒業式及び修了式を執り行いました。学部卒業生は 143 名、修士修了生は 42 名でした。主な就職先はホームページをご参照ください。学部では 143 名に対し求人総数 2,708 社と良好な就職状況にあります。

一方、進学に関しては、44% に当たる 63 名が中央大学大学院に入学いたしました。しかし、世界的に高学歴化が進む中で本学科の大学院進学率は高い水準とはいえません。中央大学が研究大学を目指すには多くの学生が修士に進学し、博士課程にも進学する環境を整える必要があります。TA(Teaching

Assistant) 及び RA(Research Assistant) の更なる拡充とともに、何よりも学生の大学院に対する意識を変える必要があります。大学院に進み、世界に通用する能力を身に着け世界に打って出るという意識を持って欲しいと考えています。同時に教員側も研究水準を高める努力を行います。研究大学として認知されるか、教育大学(専門学校)として認知されるかはこの5~10年の取り組みで決まるでしょう。同窓会の様々な支援が必要です。なお、研究大学の定義は難しいのですが、現在のところ日本では20校程度と言われており、私学では早稲田と慶応がこの範疇に入っていると考えられています。

2013 年前期

本学科への新入生は144名(内3名女子)でした。2013年4月6日に、理工学部新入生全員に本学科がイニシアティブを取って導入した日本語と英語のロジックテストが実施されました。これは文科省のグローバル人材のプログラムの一つとして行われました。本学科は電気系の研究がよりグローバル化される中で英語の必要性を強く意識しています。英語以前にロジカルに考える訓練ということも考えています。

4月13日に、学科初の試みとして本学科主催で新入生ガイダンスを行いました。午後半日を使って、大学での勉学の取り組み方を紹介し、電気系で働くことの意味をソニーの島田敬一郎氏(執行役員)に講演して頂き、その後、新入生を10名前後のグループに分け各研究室にてグループディスカッションを行いました。夜は、綺麗な夜景を見ることができる3号館10階の会議室において懇親会を開催し交流を深めました。

本ガイダンスの目的は、新入生が様々なチャンネル(先輩とかサークル)から悪い影響を受ける前に、自らの責任と判断によって行動することを身に着けてもらうことです。高校までの教えられる立場の生徒ではなく、自ら学ぶ立場の学生であるということを実感してもらうことです。大学生活はサークルとバイトがメインだなどと言いつつ学生はいないと信じておらず。本ガイダンスの成果は日々の学習状況と試験結果から判明する予定ですが、現時点では不明です。

来年には何らかの報告ができるかと思っています。

8月8日から10日にかけて、飯塚同窓会会長始め5名の同窓会会員の参加も得て、170名ほどの規模で電気系の合同合宿を伊香保温泉にて行いました。学生の自主的な活動ですが、12の研究室が参加し、クイズ大会、ソフトボール大会、ビンゴ大会と交流を深めました。気温40度の中でのソフトボールは良い思い出になるでしょう。

最後に

この一年の学科及び専攻の主な活動を時間軸で振り返りました。これらの活動とは別に、教員、教育技術員、職員、各々の日常業務があります。教育は、講義、演習、実験としてシステマティックに進められ、その上に各研究室において卒業研究・修士博士研究の指導が行われています。そして、各教員の研究が研究室において進められています。大学での高等教育においては、教育と研究はどちらも疎かにできないというのが私たちの認識です。

教育及び研究をさらに充実するために、中央大学が研究大学として広く認知され、国や民間から教育研究資源をより多く投入される対象となることを目指しています。そのために本学科の現在の状況を正確に捉え、利用できる資源の再配置を行い、特色のある教育及び研究を打ち出すことを検討しています。一例として、マーケティングからインテグレーションまでをデザインする科目「工学デザイン」を2014年度から実施します。また、システムインテグレーションをキーとした新しい研究領域の立ち上げなどを進めています。

大学の置かれている状況は常時変化しており、それが年々加速されています。世界とつながりつつある私たちの社会が大学を大きく変えていくようです。日本語で日本人学生に教えるといったことが懐かしくなるかもしれません。私たちは変化を前提として、前例などに捉われず置かれている状況に柔軟に適応していく学科として前に進んでいきたいと考えています。

今後とも、同窓会からのご支援をお願い申し上げます。

教職員の皆様の自由投稿広場

この広場では、教授、准教授、助教、教育技術員、並びに、職員と言った教職員の皆さんに、ご自身の近況、研究室の近況、ご自身が日頃感じていること、趣味の世界のこと、等々を広く自由に投稿していただきました。会員の皆さんの中には、自分がお世話になった先生の近況が見つかるやもしれません。また、すでに、お世話になった先生方が大多数他界されてしまった昭和年代卒の会員の皆さんにおかれましては、現役の教職員の皆さんをいくらかでも身近に感じていただけたら幸甚に存じます（会長コメント）。



グルノーブル滞在記

電気電子情報通信工学科 教授 庄司 一郎

大学の在外研究制度を利用し、2012年4月より1年間、フランスのグルノーブルに滞在しました。長期の海外生活は初めてで、いろいろと貴重な経験をすることができました。

グルノーブルはフランス南東部に位置し、スイスやイタリアとの国境に近く、東にはアルプスが間近に迫っています。また、その他の方角も全て2000m近い山にぐるりと囲まれているため典型的な盆地の気候を示し、8月には40℃近くまで気温が上がる一方、冬の朝は零下まで冷え込みます。1968年に冬季オリンピックが開催されたことでも有名で、今でも会場跡地は公園として市民の憩いの場となっています。



グルノーブルには多くの大学と国や企業の研究所が集結しており、フランス随一の研究学園都市と位置づけられています。市の北東部にキャンパス地区があり、ジョセフ・フーリエといった名前を冠した大学と、学生達の寮が広大な敷地に展開しています。一方、研究所関連は市の北西部、イゼール川とドラック川が合流する「半島」と呼ばれる地域に集中しています。こちらにはCNRS（フランス国立研究センター）やCEA（原子力および代替エネルギー庁）をはじめとする大小様々な研究所のほか、「半島」の先端部にはヨーロッパで最大級のシンクロトロン放射光施設 ESRF があり、ヨー

ロッパはもちろん世界中から研究者が訪れています。

CNRS の研究者は大学の教授職も兼務し学部生や大学院生の教育を担っているケースが多く、また、博士課程の学生もキャンパス地区まで出向き、基礎科目の演習などで学部生を指導しています。逆に、修士課程の学生達はインターンシップ（フランスでは学年ごとに3か月や6か月間、研究所や企業での研修が義務づけられているそうです）時に研究所で研鑽を積むこともでき、研究・教育活動が大変効果的に実践されている印象を受けます。

私は CNRS のネール研究所に所属して研究を行いました。CNRS はフランス最大規模の研究機関で、分野ごとの施設が国内のあちこちに置かれています。グルノーブルにも複数の研究所が設置されていますが、最も大きいのがネール研究所です。磁性の研究でノーベル賞を受賞し、グルノーブル大学でも教鞭をとっていたルイ・ネールにちなんで創設され、磁性に限らず物性全般に関する幅広い研究が行われています。

日本では朝から晩まで仕事に打ち込むのも普通ですが、フランスの研究所の人達を見ていると、いわゆるワーク・ライフ・バランスがしっかり取れていると感じます。夕方6時には多くの人が帰宅の途につき、家庭での生活を楽しんでいるようです。また、フランスの初等学校は土日だけでなく水曜日も休みです。そこで、小さな子供のいる女性は水曜日も休んでいます。フランスはこの他

にも子育て支援の制度が充実しているため、また、マリー・キュリーを生んだ国でもあるからか、女性研究者の割合が日本に比べずっと高いです（日本が13%程度であるのに対しフランスは30%近く）。日本も参考にすべき点が多々あると思います。

私も週末にはフランスならではの生活を味わいました。グルノーブルは紀元1世紀から記録が残る古い街であり、市内を散歩するとヨーロッパならではの歴史の重みを感じます。地元の人が「バブル」と呼んでいるカプセル型のロープウェイで市北部の山に登ると街が一望できますが、手前のイゼール川周辺の旧市街はほとんどが石造りで赤屋根の建物なのが、遠くになるにつれ近代的な高層建築が増え、街が広がっていった様子がわかります。また、周辺には広大な農地や牧場が多く、青空市場に行くと生産者から直接新鮮で安い野菜や肉を買うことができます。もちろんチーズやワインも本場ですので、何を買うか迷うほど種類が



バステューユ城壁へと繋がる球形ロープウェイ

豊富です。

日本とは異なる環境で研究生活を送ることができ、このような機会を与えてくれた大学と、不在の間いろいろとサポートしていただいた学科の先生方には大変感謝しています。在外研究で得られた様々な経験を、是非今後の研究・教育に生かしていきたいと考えています。

・



最近の学生気質

電気電子情報通信工学科 教授 白井 宏

1987年に本学科に赴任して以来、はや四半世紀になりました。最近、卒業生が訪ねてきて、学科準備室の教職員の出勤一覧表を見て、教えてもらった教員の名前がほとんどないといわれます。考えてみたら同期で入職した築山先生よりも古くからいる先生は小林一哉先生だけになってしまいました。自分の研究室を巣立った卒業生ももう企業の部長職をやっていたりして、年の経つのはほんとに早いと感じます。

ちょっと前に「新人類」といわれた世代がありましたが、我々「旧人類」、いや「旧石器時代の人間」は、常に18歳の新しい世代と付き合っていかなければならない訳で、今の世代は「新新人類」、いや「超人類」かもしれません。

ここ数年、学生は教員本人を目の前にしても教員を「先生」ではなく、「さん」づけで呼びます。親

しみを込めてくれているつもりかもしれませんが、何となく尊敬されていないように感じ、最近は特に年齢が離れてきたこともあり、違和感があります。どうもこれは学生が悪いのではなくて、小学校の教育のせいのようなのです。一時期、教育委員会は小学校の教師に対して、「先生」ではなく、「さん」で呼ぶように指導したようです。それはその後続かなかったようで、今はまた「先生」に戻ったらしいのですが、この時期に教育された学生だけで終わるのか、要経過観察です。日本では「先生」と呼べば、多くの人が振り返るといわれる時代もついに終わるかもしれません。

卒業生諸兄の皆様も職場に配属される新入社員にこうした違いを感じられることでしょうか。そのうち職場でも「課長」、「部長」、「社長」も死語になるかも？どうぞご期待ください！



ジョークが通じる条件

電気電子情報通信工学科 教授 築山 修治

電車の網棚で寝てみたり、お店の冷蔵庫に入ってみたり、ハンバーガーのパンの上で大の字になってみたりと、突拍子もない映像を撮ってネットで配信しては喜ぶ者が居るそうです。本人はジョークのつもりなのでしょうが、世間様には通用しないため、マスコミでたたかれています。

ジョークが通じない状況は段々増えてきているようで、公共とか政治とかの世界では、ジョークの使い方が大変困難になっています。私のように、ついつい笑いをとろうと考える大阪人根性の人間にとっては住み難い世の中になってきました。

私が教室で言うジョークも通じにくくなっており、数学者と技術者が出てくる列車の切符の話などは、大半の学生がキョトンとしていました。もちろん、笑いを取るには話の持って行き方が重要で、友人や娘に話したときにはうけていたので、行けると思ったのですが・・・

この話を、都市環境学科（昔の土木工学科）

の先生にしたら、ジョーク3倍説というのがあり、ジョークが通じるのは自分の年齢の3倍までの人と3分の1までの人だと、慰めてくれました。私も63歳ですから、21歳以下の1・2年生には通じないのかもしれませんが。こうなったら、ジョークは卒業生相手に同窓会で言うしかなく、教室でのジョークを封印する必要があります。

ジョークが通じるための要因に関しては幾つか思いつくものがあるのですが、確かな話ではないので、この辺にして、最後に近況を。今は、貰ったiPadに数学の歴史やクイズ関係の本を入れて読むのが楽しみになっています。こちらは時々ジョークも書かれていますが、論理で押していく話が主なので、がっかりすることが少ないのが嬉しいところです。

人は、人に対する興味を失ったら、草木に行き、最後に石に興味を持ったら寿命だと聞いたことがあります。数学やクイズは石に近いかなと想ったりする今日この頃です。

がんばろう日本！

がんばろう東北！

今できることを、
精いっぱい。



秩父屋台囃子

電気電子情報通信工学科 教授 田村 裕

学科パンフレットの自己紹介の趣味の欄に「秩父屋台囃子」と書きました。12月に開催される秩父夜祭の山車の上で演奏されるもので、和太鼓好きの方にはそこそこの通ったお囃子です。私が現役だったのは、高校生の頃ですので、引退して随分たちます。

中学校のころの先生が秩父屋台囃子保存会の会長で、先日の同窓会でお会いした時、「そういえば浅草の太鼓屋さんに、皮を張り替えてもらった大太鼓を車で取りにいった時に、中大の前を通ったよ。」とのことでした。大太鼓の皮は4～5年で張り替えるのと、保存会会長が管理する大太鼓はいくつもあるので、毎年のように浅草に通うのだそうです。「大太鼓だと気軽に宅配業者に頼めないから、受け渡しだけでも一仕事で

すね。」と返すと、その続きがありました。その店は、本番のお祭りには、必ず浅草から出かけて行って、太鼓の出来を確認するそうです。以前に満足のいく出来でなかったことがあって、その先生もちょっと変だなあ、と思ったとのことでした。そのとき、演奏を聴いた太鼓屋の方から、「張り替えます」と言ってきたそうです。

秩父夜祭は、毎年12月3日を中心に行われる秩父地方の総社、秩父神社の例大祭で、秩父では単に「お祭り」又は「冬祭り」と呼ばれています。

また、京都の祇園祭、飛騨の高山祭とともに「日本三大曳山祭り」に数えられ、祭礼当日は、絢爛豪華な2台の笠鉾と4台の屋台が曳行されます。



日本のエレクトロニクス復興

電気電子情報通信工学科 教授 竹内 健

リストラや事業撤退が続く、日本の電機メーカー。技術力で優位でありながら事業で韓国企業や台湾企業に負けるのはなぜでしょうか。日本のエレクトロニクス復興には、技術開発の最前線にいるエンジニアが市場動向やビジネスモデル、サプライチェーンなどを常に考えながら技術開発を進めることが必要です。私は東芝にてフラッシュメモリ事業の立ち上げに携わり、スタンフォード大学経営大学院にてMBAを取得するなど、技術開発だけでなく、マーケ

ティングや事業戦略立案などビジネスにも深く関わってきました。少しでも日本のエレクトロニクスの復活に貢献したいという思いから、ビッグデータのサービスに向けたコンピューターアーキテクチャの研究や教育をする傍ら、日経BP社と協力してコラム「エンジニアが知っておくべきMOT(技術経営)」(<http://techon.nikkeibp.co.jp/article/COLUMN/20110208/189415/>) や本の執筆「世界で勝負する仕事術 最先端ITに挑むエンジニアの激走記(幻冬舎新書)」を行っています。



8月15日と綺麗なノート

電気電子情報通信工学科 教授 橋本 秀紀

昨日8月15日は私の56回目の誕生日であった。終戦記念日と同じなので覚えやすいのが売りであったが、NHKによれば知らない人がとても多いとのことである。恐らく、一度はどこかで教わるのだろうが、実際に体験していなければ忘れるのは当然であろう。私も8月15日が誕生日でなく、NHKが終戦特集を毎年放映していなければ忘れていたかもしれない。人はとにかく良く忘れるのである。

大学時代に勉強した内容も忘れるようである。先生の話を生懸命に聞き、克明にノートを取り、過酷な試験勉強をして身に着けた内容。実験でグループの連中と熱く議論した内容も忘れるのである。長い年月が経つとともに忘れていく。これには例外はないようである。

誕生日の8月15日に両親の住む家に行き、たまたま私の大学時代のノートを見つけた。英語、ドイツ語、といった教養の講義、数学、化学、化学実験、生物、そして電気機器、電力応用、エネルギー基礎論、制御工学といった専門科目、それらのノートを開いてみた。とても字が綺麗である。そして要領よく美しくまとめてある。感動してしまった。

誰か知らない人のノートを見た感動である。なんてよく勉強する学生なんだという感動である。レポートもあった。字も綺麗だし、内容も面白い。ついつい見入ってしまった。ノートを読み進めるうちに、何度も驚いた。こんなことも教わっていたのか。えっ、このように理解すべきなのか。なるほど、そういうことなんだ。

30年以上たつと、書いた本人ですら全く覚えていないことが随所に出てくる。それよりも、どの先生の講義だったのかが思い出せない。その当時は、試験にパスするためにかなりの時間を費やして、細部にわたって学んだと思われる。しかし、

内容を思い出せない。どの先生に教わったのだろうか。

これはまずい、学生に講義の重要性を説いているのに、出席していた講義の内容を思い出せない。先生の顔が出てこない。自分で書いたノートが他の人のノートのように思える。果たして大学の講義に意味があったのだろうか。実験も同様である。もちろん、卒業後に関わった仕事に関係するものは覚えているが、その他がごっそりと抜けている。無駄なことを教わっていたのだろうか。少し議論をしていこう。

まずは、教員としての公式見解。学んで無駄になることはない。学んだことは必ず役に立つ。自分自身の価値を高めるものである。だから、何事も一所懸命に学ぶべきである。説得力があるかどうかは別としてまっとうな見解である。

続いて、元学生としての非公式見解。内容を思い出せないものは学ばなかったことと同じである。少しは自分自身の価値を高めたかもしれないが、もっと役に立つことを学ぶべきである。こんなことならもっと遊んでいればよかった。これも、そこそこまっとうな見解である。

まっとうなお互いに相反する見解が2つ。この議論は両論併記で終わればよいのだろうが、両方の見解を同時に持つことになった私自身の始末がついていない。この相反する2つの見解を私の中で上手く昇華させなければならない。2つの矛盾を止揚（アウフヘーベン）することによって解決するのである。

さて、よく思い出してみよう。大学時代のことを。学んだ内容は確かに忘れてる。しかし、学んでいたことは良く覚えている。暑い日も寒い日も、電車に乗ってとにかく大学に行った。つまらない講義。生協食堂での昼食。友人との楽しい会話。つまらない実験。途中からしんどくなった学園祭の準備。気恥ずかしい合コン。楽しいコンパ。

割の良い家庭教師。残酷な成績表。――。結構思
い出せるものである。でも、講義の内容と実験の
内容だけではなく、何を食べたかな、何の話をし
たかな、どんな合コンだったかな、もごっそりと
抜け落ちている。一所懸命食べて語り合ったのに
内容は忘れてる。何々をしたという行為だけが
記憶として残っているのである。そして、その記
憶が豊かな体験となり私自身を作り上げている。
どんなことも程度の差はあれ内容は薄れていくも
ので、一生懸命やったという行為のみが記憶に留
まっているのだ。適当にしてきたことは内容は当
然のこと、行なったという行為自体も忘れてしま
うのであり、それこそ無かったことと同じになる。

答えは見えてきた。私たちが一生懸命に行なっ
たことは、その行為が記憶の中に残り、豊かな体
験として私たち自身を作り上げていくのである。
一所懸命でないことは何も残さない。無かったこ
とと同じである。ただただ時間が過ぎ去っていく
だけである。これが一番詰まらないことである。
時間だけは元に戻すわけにはいかないし、寿命が
ある以上限られた量の時間しか存在しないのであ
る。何も残さない時間はもったいない。

以上を踏まえたうえで、元学生で現在教員の私
の私的見解は

「一所懸命学んで無駄になることはない。学ん
だという行為は豊かな体験となり自分自身を作り
上げていくのである。一生懸命学ばないのであれ
ば、一所懸命できることを探してでもやりなさい。
自分の持っている時間は有限であるのだから、何
も残ることのない時間の使い方は本当に無駄にな
ります。」

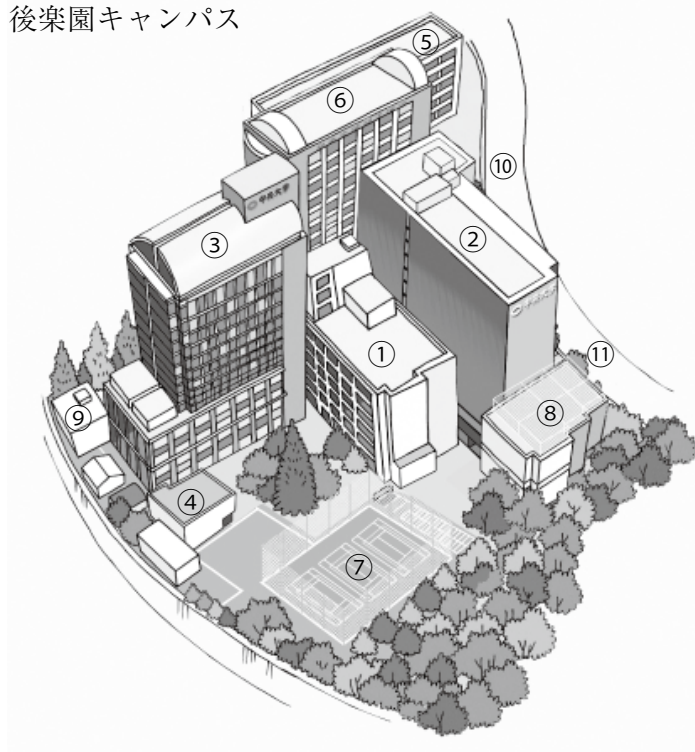
少し分かりにくいかもしれませんが、私自身の中
では、とても綺麗なノートを取っていた自分と
折り合いがつかしました。一所懸命にやっていたよ
うです。学んだ内容は忘れましたが、一生懸命学
んでいたことをその時の友人たちや学園祭その他
諸々の事とともに鮮やかに思い出せました。

冒頭の8月15日に関しては、終戦記念日のこ
とを一生懸命考える機会があれば、少々ことは
忘れても、それが私たちの豊かな体験となり平和
を希求する私たち自身を作り上げていくのだと思
います。(それと8月15日は私の誕生日です)

本稿は8月15日の依頼で16日脱稿なので内容
にミスがあってもお許しください。

*** **

後楽園キャンパス



- ① 1号館（研究室、実験室、保健センター、
学生生活課、学友会理工分室）
- ② 2号館（研究室、実験室）
- ③ 3号館（研究室、実験室、食堂、ITセンター、
キャリアセンター、戦略経営研究科事務課）
- ④ 4号館（学生サークル棟）
- ⑤ 5号館（研究室、実験室、アリーナ、生協、
食堂、教室）
- ⑥ 6号館（研究室、実験室、理工学部事務室、
教室、図書館）
- ⑦ 多目的コート
- ⑧ 8号館（中央大学高等学校）
- ⑨ 実験棟
- ⑩ 正門（白門）
- ⑪ 東門

小林健一先生を偲ぶ

昭和33年卒 鈴木 轟 八



本学科で長きにわたって教鞭をとられた小林健一先生が、去る5月27日未明にお亡くなりになりました。享年83歳でした。

先生は、昭和29年中央大学電気工学科を卒業し昭和31年早稲田大学大学院工学研究科電気工学を卒業後、ただちに中央大学に赴任され助手、専任講師、助教授そして昭和45年には教授になられ平成9年に退職されました。大学院時代は早稲田大学工学部教授の平山博工学博士に師事されたそうです。

赴任直後の先生の講義を初めて受講したのは私が三年に進級したばかりのときでした。その時の先生の印象は教育に対する情熱が極めて強く、まさに燃え盛っているという感じでした。先生の講義内容は電気回路論でしたが放課後でも希望する学生には積極的に補習をしてくださいました。私も参加しましたが頭が痛かったのは補習後には必ずテストがあり採点されるということでした。

当時先生は「負性抵抗の研究をされており、実験装置は当時出始めたばかりのトランジスタを使って組み立てました。私も装置の組み立てやデータの測定などをお手伝いさせていただきました。先生は「負性抵抗」の解析にジャイレーターという概念の手法を使っておられました。

先生は平成3年9月に還暦を迎えられたので、小林研OBが中心となってお祝いの会を催しました。参加者は小林研OB50名のほか先生と親交のあったOB13名も参加されました。また平成9年2月1日の最終講演には大学職員及び学生30名のほかOB56名が受講者されました。講演後は5号館地下食堂にて小林先生の他に定年退職される有馬講師、鈴木講師を交え、お三方に対するお別れパーティが理工学部主催で催され、小林

研OB43名、大学職員33名の参加がありました。

先生は長年にわたり電気理論の教育に携わってこられました。その功績に対し平成23年春の叙勲で瑞宝中綬章を授与されました。

小林研究室OB会世話人代表斎藤敬さんによると、先生の著書は昭和60年代に「基礎電気理論」「回路網基礎例題演習」「電気数学演習」があります。「基礎電気理論」の第4刷発行終了後には出版社から次の電気専門書を書いてみないかとの打診があり、最近流行のマンガで発行したいという先生の考で話がまとまったそうですが、ある大学出版局が既に専門書のマンガをシリーズ化して出版するという情報を受け、自分の出版は諦めたそうです。

先生の自宅は人形町にあり、ご両親は帽子のお店を開いておりました。先生はよく自宅に私ども学生を招いてくれました。今でもご馳走になったカクテルの味やご両親の笑顔は忘れられません。卒業後も先生から教え子数名が蔵王でのスキーのお誘いを受けたことがあります。夜は全員で歓談し、翌朝六時には宿を出発して地蔵岳を經由し、美しい樹氷を眺めながら湯釜まで行きました。

私が卒業した昭和33年はきわめて就職が困難な時期でした。私が文化放送の就職試験を受けた数日後、先生が私に「興信所の人から今日訪ねてきたので君のことを褒めておいたよ」とおっしゃいました。そして採用内定の電報が届いたときには我がことのように喜んでいただきました。恩師でもあり先輩でもある先生の温かい思いやりの心と、これまでのご指導に対して深く感謝したしいです。

永遠の眠りにつかれた先生の遺志は私ども一人ひとりの胸に刻まれ、いつまでも人々の心に生きることと思います。ご冥福をお祈り申し上げます。

会員からのお便り

(平成24年 総会出欠用の返信葉書の近況・コメント欄からの転載、都道府県は現住所)

会誌を通じて卒業生諸氏の消息に接し、懐かしい思いでいっぱいです。今後とも、より多くの方々が同窓会に出席されるよう期待して止みません。
(元専任講師 東京都 深井 昌)

気だけはまだ元気です。

目下、ビデオをDVDに変換整理中。そして、疲労を感じる様になりました。

(昭和28年卒 埼玉県 竹中四朗)

昭和31年卒の我々は既に八十路に差しかかっている。卒業時45名居た仲間が次第に減って今連絡が取れるのは22名になってしまった。卒業時は現代と次元の違った就職難で半数は連絡先が解らなかった。その後少しずつ判明し同級会を開くと二十数名は集まっていた。ところが古希を過ぎると暫減し二十名を切り遂に今年(5月)には8名に減ってしまった。

高度成長期第一線でキラキラ輝いて活躍した戦士だったのに寂しいかぎりだ。出席できない理由の第一は腰痛である。でも集まると昔に返って話はずみ時を忘れる。来年こそは出席するとの返信が数名あるのを期待して来年につなげる事とする。

最後に沖縄からのパスポートをもって就学していた安里君が昨年暮れに旅立った。彼は終戦間近の沖縄激戦の最中避難洞穴の中で若い将校に促されて穴を出たと話していた。昨日のように思い出す。

さて来年は何人集まれるのかそれを楽しみに

(昭和31年卒 神奈川県 堀中武和)

同期会の卒55年記念四国旅行を催しました。45名で大型バスが定員一杯でした。皆、元気で三泊四日を満喫してきました。縦横とも繋ぎは大事にしています。

(昭和32年卒 大阪府 内田 信)

事務局注

内田さんは、本年3月にご逝去されました。
謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

今年も年末が見えて来ました。諸兄に於かれましては如何お過ごしですか？

フィリピンへ来てから16年が過ぎました。当地は末尾にERが付く月はX'masと言われる様に9月に入るとX'masですから毎日がにぎやかです。

今年是不景気な2012年でした。私達の工業団地でも日系企業の数社がクローズしました。私も早く息子に会社を渡しゆっくりしたい近頃です。

日本の政界以上に海外の産業界は下火です。最近韓国系、中国系の進出企業の元気が良い様です。しかし我々は決して負けません。

(昭和34年卒 神奈川県 佐々木 裕)

平成24年10月に3年前より続けていた水彩画個展を健康上の理由で準備不十分のため、中止せざるを得ませんでした。毎年続けていた個展を中断することになり、健康の大切さを痛切に感じています。次年は個展が開催出来るよう健康回復に努めています。

(昭和34年卒 東京都 塚原達雄)

台湾系自動車部品、電線、電池等を造る会社のアドバイザーをしています。

(昭和35年卒 埼玉県 笠松道生)

畑仕事に精を出しております。皆様によろしくお伝え下さい。

(昭和35年卒 群馬県 加賀谷 博)

社会への恩返しのボランティアとは言え市展や美術家協会の仕事に奔走している毎日です。家内は適当にしたらと言いますが仕事を頼まれるとやってしまう性分で情けない。

いま目標である「真の画家」になり切れないのが悩み。来年の秋には地元で個展を開く予定です。これから制作に追われる毎日となります。

(昭和35年卒 埼玉県 田伏良雄)

同窓会の皆さん、今日は又一年経ちました。前号でも書いた豪風関は大関処かエレベータ（上がったり下がったり）をやっております。

今回誌に取り上げられた福島原発事故の記事は大変参考になりました。又、同窓会の発展に関する一考察のテーマⅠについて、私の提案ですが、我々の高等学校でやっている当番制（卒業年度による）でやってみるのも研究課題となるのでは・・・。詳細は書けませんが、全国の高校の同窓会のあり方を調べてみては如何？では何年度卒からやるかは大変な問題ですが参考にしてみして下さい。当大学の白門三五会支部が同窓会ではありませんが似たようなものを毎年盛大にやっております。・・・ではお元気で

（昭和 35 年卒 福岡県 新開盛治）

会誌第 49 号 P 22 に出ている若林君と同窓で、その記事の中に紹介があった電気 35 ゴルフ会の今期の幹事を担当しています。ところで我が電気 35 ゴルフ会と中大電気 O B 会ゴルフコンペが両方とも春秋の二回と重なっていて、今秋のコンペはたまたま開催日がニアミスになり、私共は O B ゴルフ会には参加できません。



そこで、今後は O B 会側と連絡を取り合っていく予定にしております。

（昭和 35 年卒 千葉県 丸森平昭）

2012 年発行の第 49 号「私の近況」に掲載させていただき有難うございました。

今年の夏は暑い日が多く日本各地で最高気温を更新しました。加えて尖閣、竹島、北方領土問題で外交がギクシャクし、ますます熱くなりました。そんな中、山中教授のノーベル賞受賞は本当に喜ばしく日本中の人々がホッとしたと思います。（昭和 35 年卒 東京都 若林松吉）

食事制限付で囲碁三昧の毎日を楽しんでいます。（昭和 37 年卒 千葉県 米倉孝栄）

私自身は大変元気ですが妻が病気の為、毎日介護をしながらノンビリと生活しています。

（昭和 38 年卒 東京都 五本 武）

数年前より自適生活に入っていますが、昨年の大地震、原子力事故の復興が難航しているところへ、最近の尖閣諸島をめぐる中国との関係など経済面も含めて厳しい情勢となりつつある。

一方ではノーベル医学生理学にて山中教授受章など明るい話題もあり、若い学生諸君は、日本の科学部門大いに期待でき、自信を持って前進してもらいたい。

健康に恵まれ、小生も居住地での中大 O B 同期生（オール中大）などと旅行、ゴルフ、俳句など毎日を楽しく過ごしている。

（昭和 39 年卒 埼玉県 齊藤榮喜）

今年（2012 年）は結婚 40 周年ということで、スペイン旅行に女房と一緒にってきました。元気な内に国内外の旅行にできるだけ多く行って楽しみたいと思っています。旅行した時の RAW 画像を現像ソフトを使って色々と画像調整して、その結果をブログにアップするのも楽しみとなっています。



（昭和 40 年卒 埼玉県 門原健男）

昨年 10 月に会社を退任し現在はフリー（無職）です。本年 4 月から体に異常が見つかり通院治療中です。高齢になると体に種々ガタが来るケースが多い様ですのでお互い気を付けましょう。

（昭和 41 年卒 東京都 青山宣弘）

会誌も充実し幹事の皆さんのご苦勞に感謝しています。相変わらず(株)日野の社外取締役として都市再開発事業にかかわる一方で(株)アビーズの技術顧問としてバッテリー事業にも取組み、全国を舞台として忙しい日々を送っています。

そうした中にあっても健康第一をモットーに週一ゴルフやジョギング（毎年の青梅と今年 4



回目の出走となる東京フルマラソン）に精を出し、充実した日々を過ごしています。感謝！

（昭和 41 年卒 東京都 田口昭夫）



体の柔軟性が改善したことによりゴルフが安定、一段と楽しくなって来ました。社会との係わりは「人と組織の可能性を拡大する」ビジネスコーチングで自分にチャレンジしています。

来年（25年）UK訪問に向け準備中、これまた楽しみです。

（昭和41年卒 埼玉県 竹村英雄）

- ①第49号拝読、内容は一層充実し、会誌委員に感謝申し上げます。
- ②同窓会への関心について、自分自身を振り返っても、40歳代は働き盛りで、同窓会には小中高大、全く関心は有りませんでした。仲間の他の大学でも同じ傾向の様です。継続（工夫しながら）していれば良いと思う。
- ③学園祭でOB会紹介コーナーで何か企画し、現役学生にPRする。
- ④返信用ハガキの回収率を上げるには「受取人払い」にすればよい。50円切手を貼って出す事は面倒（一般的に切手を家庭に在庫していない）財源は検討。会誌発行事業費は1口1,000円以上とする。振込用紙を配布、これで納付者が増え、財政が豊かになると思う。
- ⑤今年、古希で一杯会が多いです。

（昭和41年卒 千葉県 富田紘志）

43年間の企業勤務から専門学校での講師生活も4年目の69歳です。春、夏、冬休みと自分の学生時代にタイムスリップして長期休暇を楽しみながらの勤務です。只今後期授業中です。

電気工事士・電験3種・消防甲4等、教室、実習室での思い出を持って卒業し電気関連分野の企業に就職したあとには、4月からの新年度授業で電気工事を学ぶ18歳の若者との新しい出会いが待っております。古希を迎えて若者に活力をもらいながら伝記を共に学べる幸せを感じています。健康に気をつけて頑張ります。幹事の皆様ご苦労様です！！

（昭和41年卒 広島県 橋本正樹）

同窓会役員・常任幹事の皆様には大変お世話になりありがとうございます。

社員教育の仕事は週3日、週2日の農業は自給用畑250坪で年間50品種を収穫しています。

趣味の男声合唱は週2回、今年計12回のコンサート活動を予定しています。



尖閣諸島で中国との摩擦が増えていますが新しい試みとして中国語会話を習い、日本国内企業への中国人の就業支援活動を計画し、これらで毎日忙しく暮らしております。

（昭和42年卒 千葉県 秋田隆史）

前略、菱沼同窓会長はじめ、役員の方々の御努力、種々の御提言等々は同窓会員だけでなく、家族にも少なからず連帯感を与え、元気づけていると思います。大学を背後で支える一助になることはもとより、卒業生に勇気と誇りをも与えるものと信じています。ありがとうございます。

2005年に設立した会社、アイコンテクノ(株)が7年経ちました。リーマンショックを経て、現在16名の技術者が活動するエンジニアリング会社です。協力会社さんや個人事業主（スペシャリスト）とも連携して事業を行っています。弊社の金子会長は私の先輩で中央大学電気工学科の同窓生です。氏は大学時代に強く影響を受けた考え「科学する心」を若手技術者に伝えています。また、経営理念の中に人としてのありようをうたい、技術者にくり返し教えています。

（昭和42年卒 東京都 中田靖夫）



昨年に続き彩の国いきがいがい大学2年制の美術工芸科に在籍し2年かけてデザイン・水彩画・陶芸・油絵・木彫等50年前に戻って勉強しています。

「ネンネンコロリ」にならない様に外出に心がけ健康に留意した生活を送っています。

（昭和42年卒 埼玉県 島村公三）

私は正月早々に右足アキレス腱段説し、1ヶ月入院、9月末までリハビリでした。

5月には中学の仲間が8名上京し、東京在住7名合わせて15名で一泊同窓会を「新浦安万華郷」にて行い、古希の祝いをお互いに喜び合いました。また、今年は仲間が2名他界しました。元気がなにより大切です。

(昭和43年卒 千葉県 中村雅喜)

今年で、卒業から40年が経過し、今年と同窓会総会のあとは、同期の約30名と一緒に天ぷら屋形船で東京湾を楽しむ予定になっています。

昭和50年から特許業界に入り、平成元年に弁理士試験に合格したのち、現在に至る特許一筋の人生です。これからも、まだまだ、体が続く限り頑張りたいと思います。



(昭和47年卒 東京都 飯塚信市)

自営のため、まだ現役を続けています。でも年令には逆らうことが出来ません。気力は十分なのですが体力が追いつきません。同窓会には毎年参加出来れば・・・と思っています。

(昭和47年卒 神奈川県 小島和男)

半導体を取り巻く状況は非常に厳しいですが、何とか頑張っています。

Facebook 公開しています。訪問して下さい。

(昭和63年卒 神奈川県 細田浩希)

今年こそ同窓会総会に参加したいと思いましたが、急な転勤で2度目のフィリピン駐在になってしまいました。前は5年半、今回は？

今度帰任した時にはぜひ参加したいと思います。(平成3年卒 兵庫県 藤井久士)

私の中の中央大学は、在学在職していた頃のままですが、新校舎もでき、先生方も退職、新任され、同窓会の案内を見ながら、時は過ぎゆくものだな・・・と感じています。

(平成6年卒 東京都 関 信孝)

震災から1年半が過ぎましたが、石巻の復興がなかなか進みません。仮設住宅には、いまだに数千世帯レベルで住んでおります。これから本格的な復興工事が始まります。素晴らしい石巻に再生することを願います。

忙しく仕事が出来てを幸せに感じながら、地元復興の為に頑張っています。

(平成12年卒 宮城県 高橋寛治)

子供も2才になり、最近私の会社の製品の玩具と一緒に遊ぶことも多くなりました。仕事と子育てと充実した日々を送っています。

(平成15年卒 東京都 平林思問)

最近、地域でのエネルギーの地産地消ができないものか、自分なりに調べながら日々を過ごしています。いつか、ぜひ先輩方のご意見を伺ってみたいと考えています。

(平成16年卒 東京都 木島雅史)

研究の関係で中国へ訪問する予定ですが、無事に帰ってこれるのか心配です。何事も無く帰国できたならば就職活動がんばります。



(平成23年卒 神奈川県 佐野太悠)

今年も沢山のお便りありがとうございます。中には素敵なコメントを書いて下さっても本欄への転載を認めて頂けないものもあり残念です。



会誌第38号(平成13年発行)から掲載を開始した本欄を楽しみにして下さる方々が多数おられる様子は返信葉書からも伺えありがたいことです。

小林健一名誉教授が御逝去されました。謹んでご冥福をお祈り申し上げます。(事務局)

特別寄稿

「私のいきがい」

エース工芸社長：萩原 弘

本会の会誌は、30余年の長きに亘り、萩原弘社長が経営するエース工芸様に印刷を依頼しておりましたところ、エース工芸様は一昨年、社長の引退という形で本会誌の印刷業務をご辞退されました。その間、エース工芸様では特別に廉価な印刷費にて本会の支出低減に貢献いただき、本会としては感謝に堪えません。そこで、このたび、氏の長年の功績に鑑み、萩原社長の近況乃至人となりに関する投稿をお願いしましたところ、快く、お引き受けいただきました。以下は、氏の親しみ易い人となりの一面をお示しする一端かと存じます（会長コメント）。

今まで、私は一貫して人の輪づくりに心がけてきました。もしかしたら寂しがりやで、一人では不安で誰かとつながっていないと安心できないのかも知れません。格好のいい言葉でいうと近年よく聞く「絆」づくりなんでしょうか。地域の活性化につらなっているかどうかはわかりませんが、私がかかわったいくつかの活動を紹介します。

〈発明倶楽部 繁盛研究会〉（平成9年～）

もともと技術屋ですので機械に関してはことさらに興味がありました。昔は大体単純な機械が多かったので、ここを改良したらより生産性が上がるのではとよく機械をいじくりまわしたものでした。

また何か考えつくときすぐ実用新案を申請したりしていました。アルミ素材の名刺（昭49年）、ガラス繊維使用の写真植字機（昭58年）、FAX自動切り替え装置（昭60年）、回転歯ブラシなどまったく幼稚なものばかりでしたが、売り込みをかけたり結構楽しいひとときでした。一人でこんなことをやっても進歩がないなと思い、地域の自営業者に声をかけ、「発明倶楽部繁盛研究会」（約20名）をつくりました。（月報としてA4版で「PROSPERITY」を発行）、ところが新製品などの情報はどこも外へは出たくありませんの

で、結局のところ飲み会と化してしまいました。

〈どっかん隊〉（平成15年～）

そこで考えたことは折角のグループですので、地域活性化に役立つことは出来ないだろうかちょっと方向転換をはかりました。東京近郊の富士見市は農業も盛んな地域でしたので、農産品を加工して富士見ブランドができないだろうかというものでした。

当地は米、麦、葉ものなど多く生産していますが、保存のきくものはやはり粒もので、昔ながらの「ぼん菓子」製造ということになりました。富士見産こしひかりを使い、地域のイベントに参加し好評を博しました。大きな音がするところから地域産業振興グループ「どっかん隊」と命名しました。こんなこともありました。神田すずらんまつりの時は残念ながら都会の人に大きな音は聞いていただけませんでした。音が禁止されたので静かな「どっかん隊」になってしまいました。

〈繁盛美術館〉（平成17年～）

地域の文化活動を、地域の活性化に活用できないかと考えスタートしたのが繁盛研究会「繁盛美術館」です。地区内で活動する美術サークルの方々の発表の場として、地区内の商店からA1版パネ

ル大の壁面スペースをかりうけ展示パネルを掲示しコミュニケーションのもとになるよう環境をつくりました。チラシもつくり年末大売り出しには繁盛美術館めぐり、いわゆるラリーをおこない、賞品は各参加店からの提供で自転車など豪華品もありました。このようなふれあいの環境づくりがマスコミの関心をひき地方版ではありましたが、朝日、よみうり、テレビ埼玉など多くにとりあげられました。

作品展示には苦勞もありました。月2回の作品パネルの交換は、大変な作業で商店側はスペース提供だけです。すべて会員のボランティアでおこないました。

全国的にみると「街角美術館」などという地域活性化の運動に似ていると思いますが、私達の活動は全国的には届きませんでした。

〈ど素人大道芸一座〉(平成24年～)

私は数年前から地域の鶴瀬西交流センターのお祭りで趣味の大道芸などで活動してきました。このセンターの広報編集の手伝いをしていますが、特集を組む時のテーマ選定の中で、地域の自宅引きこもりの高齢者をいかにして外に引き出すか、方法について意見がかわされました。そんな話のなかで気づいたことがありました。人生経験の深い皆さんは何か特技のひとつふたつはあるのではと考え情報を集めてみると、やはりいるものです。興味のある人は「皿まわし」「けん玉」などやってみるとすぐ馴れてしまいました。

トークは皆さんお得意のもので、笑わせるテクニックはさすがでした。そして出来たのが「ど素人大道芸一座」です。いくつものイベントから声がかかり、他市まで出張したこともありました。

今、どこでも地域コミュニティの問題では頭をかかえていると思いますが、こういう活動でも、小さい一歩ではありますが、やってよかったと思っています。

〈おやじバンド活動〉(平成7年～)

音楽には興味がありましたが、まったく経験がありませんでしたので、グループを作ることが一番と考え所属していたライオンズクラブで、音楽同好会を作りました。たまたま音楽の経験者に恵まれ、私の音楽人生(?)がスタートしました。今は地域のおやじバンドの一つとして演奏の機会に恵まれ、地域のお祭りや敬老会、サロン、介護施設など、そして大道芸などとあわせ年間50回程の出番を駆け巡っています。また、10年目を迎えた「富士見市熟年バンドライブ」(平成16年～)は多くの市民に支えられ、市内でも上位にランクされる音楽イベントになっています。

ウイークポイントになっていたリズム感覚の改善をめざして「ドラム教室」(平成17年～)に入りました。若者にまじって汗を流しています。

あと半年で傘寿になりますが、頭の歯車に変調をきたさないよう健康管理には充分気を使っています。

(平成25年7月記)



2012年度修士論文発表会「同窓会賞」

2013年2月23日（土）に開催された「2012年度修士論文発表会」において、同窓会会員により構成された審査員が厳正なる審査を行った結果、下記の方々に「同窓会賞」を贈呈することに決定致しました。

表彰並びに賞の贈呈は、3月24日（日）に開催された修了式・卒業式の席上にて行いました。

❖❖❖ 同窓会賞とは ❖❖❖

同窓会賞は、同窓会審査員が統一された「審査チェックリスト」に基づき、下に示す独自の視点により、修士論文の発表を審査し選定したものであり、修士論文内容の学問的価値あるいは当該院生の修士課程での成績等を考慮したものではありません。

【優秀賞】

下記の観点から、修士論文発表を審査し、審査員が合議の上で優秀な論文を優秀賞とします。

- ・研究の背景や目的が明確に述べられ、発表態度に好感が持てたか。
- ・説明や図表が聴講者に分かりやすく纏められていたか。
- ・発表者のオリジナリティが明確に述べられ、残った課題や将来性について言及していたか。

【協賛社表彰】

同窓会賞の主旨に賛同し、ご寄附を戴いた協賛各社の代表により優秀賞対象発表論文の中から選定された論文であって優秀賞との優劣はありません。

協賛社名：アイコンテクノ株式会社（URL：<http://www.aikon.co.jp/>）

株式会社ウッズ（URL：<http://www.woods-corp.co.jp/>）

株式会社城南サービス（URL：<http://www.johnan-service.co.jp/>）

《 優秀賞 》

相馬 峻祐 さん（二本研）

テーマ：高出力 Q スイッチ Yb:YAG レーザの開発

水津 太一 さん（築山研） 会員

テーマ：小型 SoG-LCD 用駆動回路の最適入力配線設計に関する研究

藤田 亮 さん（築山研） 会員

テーマ：小型液晶ディスプレイ用タイミングジェネレータの NMOS 単チャネル構成に関する研究

石田 淳一 さん（久保田研） 会員

テーマ：DCT 係数のスパース化による画像品質評価法に適した画像圧縮方式

布施 理 さん（國井研）

テーマ：金属薄膜を用いた真空仕様超音波モータの膜厚および時分割駆動システムの検討に関する研究

中村 亮太 さん（久保田研） 会員

テーマ：格子を用いたカメラキャリブレーションによる自由視点画像合成

《 アイコンテクノ賞 》

平野 裕也 さん（杉本研）

テーマ：DC-DCコンバータICの電流不連続モードにおける解析手法の提案と回路設計手法の統一化に関する研究

《 ウッズ賞 》

伊藤 博泰 さん（二本研）

テーマ：大規模太陽光発電に関する電力貯蔵システムの検討

《 城南サービス賞 》

細田 大輝 さん（白井研）

テーマ：SBR 法による屋内外電磁波伝搬解析

同窓会各委員会からのご報告

本会の会務は、5つの委員会により運営されています。各委員会の構成人数は3～5人程度、年齢構成は若手からベテランまでを含むことが好ましいと思っています。そうすれば、仕事や家庭の都合で出席できなくとも、他の委員がそれを補うことができるし、若手もベテラン委員について会務を遂行するうちに、自然に会務を習得しつつ、無理なく世代交代ができるからです。しかし、現状は、各委員会は、ほとんど委員長1人で運営されています。会員の皆様、幹事の皆様、是非に、いずれかの委員会に参加して、お力を貸して下さい。伏して、お願い申し上げます（会長コメント）。



同窓会財務委員会より

財務委員長：昭和57卒 辻 正吾

一本誌をご覧の会員様へのお願い

本同窓会誌は平成卒の会員の皆様と、昭和卒の再登録済み会員の皆様へお届けしています。

会誌をご覧になっていない同窓会未加入のご友人へ入会のお勧めにご協力ください。

■本誌をご覧の平成卒会員の皆様へお願い

平成卒では残念ながら会員数が減少の傾向にあり、本誌をご覧になっている会員様も年々少なくなっています。入会のご案内が例年、卒業間際の多忙な時期でもあり、卒論や就職、転居準備などで入会手続きをできなかった方も多いためです。同期の未入会のご友人がいらっしゃるれば、ぜひご入会をお勧めいただきたくご協力お願いいたします。参考：直近3年間の入会者一覧（※1）をホームページに掲載しています。

あわせて、すべてのOB対象の懇親会（2013年11月17日、日曜、於：東商スカイホール）（※2）へのご参加も同期お誘いあわせてお勧めくださいますようお願いいたします。（同窓会未加入OB参加可）

■本誌をご覧の昭和卒、再登録済み会員の皆様へお願い

昭和卒で本誌をご覧になっている方は会員再登録を済ませられているのでよくご存知と思いますが、会誌38号（平成13年：2001年10月発行）（※3）のご案内しましたように、昭和卒の同窓会員は会誌発行事業費の納入により会員再登録をお願いしています。しかしながら、会誌発行事業費納付による昭和卒会員の再登録を知らないまま、会誌の送付が途絶えている方も多数いらっしゃると思わ

れます。

そこで、ご面倒ではございますが、会員再登録されていない昭和卒のご友人または昭和卒同期のご友人に再登録をお勧めいただきたくお願い申し上げます。

会誌発行事業費納入済みの再登録会員様一覧はホームページ（※4）に掲載しています。一覧に氏名が掲載されていない昭和卒のご友人にはホームページをご案内のうえ会員再登録を済ませるようお勧めください。

なお、ホームページの会誌発行事業費納入方法に関する概要はP.27に記載しています。

同窓会ホームページ <http://www.elect-chuo.com/>

※1 同窓会ホームページ メニュー：会員の皆様へ → 同窓会 新会員&名簿 → 入会者のご紹介

※2 同窓会ホームページ メニュー：イベント → 定例総会・懇親会

※3 同窓会ホームページ メニュー：会員の皆様へ → 会誌バックナンバー

2001年10月発行、会誌38号、P.8 お知らせ（会誌に記載のIDとPWが必要です）

※4 同窓会ホームページ メニュー：会員の皆様へ → 会誌発行事業費

同窓会ホームページ委員会より



同窓会ホームページ委員会では、今年度も内容を充実させるために、下記に示すような内容のページ更新または新版を掲載いたしました。未だホームページを閲覧されていない方はぜひご覧になって下さい。同窓会々誌バックナンバー掲載については、3年間分を昨年末までの約1年間にわたり試験的に公開掲載していましたが、役員及び常任幹事全員からのアンケート集計結果を基に常任幹事会での議決を経て、過去のバックナンバー全てを掲載し、会員は誰でもIDとパスワードを用いて閲覧できることとしました。同窓会発足時の御先輩諸氏の苦勞された様子などが忍ばれます。但し40号以前のものについては印刷物からスキャナーによって複写処理しているため、不鮮明の部分が含まれていることをご了解下さい。

また、ホームページの更なる改良改善のため

ホームページ委員長 昭和40年卒 門原 健男

の各会員の皆様からのアドバイスやご提案をお待ちしていますので、ホームページの「事務局への連絡」フォームからどうぞご意見をお寄せ下さい。

(<http://www.elect-chuo.com>)

- 1 飯塚新会長新任の挨拶
- 2 2013年4月平成25年度入学式
- 3 平成24年度修士論文発表会
- 4 平成24年度修了式・卒業式・同窓会賞授与式
- 5 2012年11月17日同窓会総会・懇親会
- 6 2013年1月理工学部9学科合同新年会
- 7 2013年第33回中大電気OB会春季ゴルフコンペ
- 8 同窓会々誌バックナンバーの掲載

—これを閲覧するためには、“会員の皆様へ”をクリックした後、IDとパスワード（裏表紙参照）の入力が必要ですので、どうぞご活用下さい。



同窓会事業委員会より

つきの活動をしております。

主な活動としましては、電気電子情報通信科の有志研究室による合同夏合宿への協賛、参加及び、修士論文発表への協賛、評価委員の参加のアレンジをしております。

今年度は、8月8日～8月10日に群馬県の伊香保温泉にて合同夏合宿が行われ、同窓会からは飯塚会長をはじめ、5名にご参加を頂きました。詳

事業委員長：平成2年卒 鳥巢 正義

しくはホームページにてご確認をお願いします。

2014年に入りましたら、修士論文発表に参加させて頂く機会がございます。

本校に限らず、多くの卒業生が卒業後なかなか母校との接点を持つことはありませんが、中大電気電子情報通信科同窓会では、この2大イベントに卒業生の皆様が参加し、母校の大学生、大学院生、教授と接点を持つ機会を設けております。

卒業生皆様が積極的にご参加頂けることをお願いしたいと思います。

同窓会総務委員会より



総務委員長：昭和41年卒 渡辺 聡

本年度の総務委員会としては、総務委員会の様々な会務に関する作業手順を文書化することを目標としております。その狙いは、そうすることで、従前、天野事務局長が10余年の長きに亘り兼務されていた総務委員会の会務を間違いなく引き継ぐことを可能とすると共に、他の総務委員にも会務を容易に理解させることにあります。

会務に関する作業手順の文書化のためには、まず、一連の常任幹事会及び入・卒業式、夏合宿等の大学の催し物に参加してその実態を把握し、次に、天野事務局長からの指導を受けて作業の全体像を把握し、しかるのち、作業の時系列順に、目的と作業の内容を下表の如く纏めると言った手法を採用しました。

作業順序	何時までに	何をする	交渉相手	備考
------	-------	------	------	----

具体的には、まず最初に、「常任幹事会の招集及び議事記録手順書」の作成を試みました。続いて、「卒業式から入学式までの一連の作業手順書」を、現在、作成中です。

総務委員会の活動は、同窓会の運営が滞りなく行われることを本旨とするものですが、特に、本年度は、

1. 同窓会員の募集と確保
2. 同窓会後継者の育成

に重点を置き、その目標にかなう作業事項を文書化したいと思います。

その他、文書化の対象となる作業としては、

1. 卒業修士論文の審査と入選選定作業
2. 卒業式・修了式での作業、入学式での作業
3. 夏合宿における作業
4. 同窓会新年顔合わせ会に関する作業
5. 総会にて選任された役員・常任幹事の連絡先一覧作成作業等々

が挙げられます。これらの作業の文書化が図られれば、総務委員が誰であっても、これらの文書に基づいて、間違いなく作業を行うことが可能となるでしょう。



同窓会・会誌編集委員会より



会誌編集委員長：昭和47年卒 飯塚 信市

同窓会誌の編集に携わるようになりましてから、かれこれ、数年が経過しました。本来、会誌編集という仕事は通年作業であって、12ヶ月の期間を有効に使用することで、アタフタすることはない筈ですが、実際の編集作業は原稿が全て整わない限り進めにくいこともあり、また私の仕事の合間に処理を進める関係で、毎年、夏休み期間の半分以上を費やす結果となっています。自分の負担を軽減するためには、作業の分業を進めることが

必要なことはわかっているのですが、そのためには、作業分析から始めねばならず、結局、時間切れで、毎年、1人で黙々と仕事をする羽目に陥っております。しかも、今年からは、会長職と兼務ということもあり、負担軽減を本気で考えないと、同窓会誌の休刊にもなりかねません。現在、なんとか会誌発行が実現できているのは、パソコン操作、印刷知識、編集知識の豊富なアシスタント女性のお陰です。と言った訳で、愚痴をこぼしつつも、シコシコと作業を進める今日この頃です。

同窓会新会員のご紹介

卒業生・修了生を対象にした新会員の入会勧誘方法を、卒業・修了の予定者各人宛に氏名を予め印刷した「勧誘の文書」と「払込取扱票」を、これも記名済の封筒に入れて各研究室を訪問して学生達に直接手渡すことにして4年目となりました。

同窓会への入会者が減少しております。同窓会の収入は、新規入会者の「終身会費」と昭和年代卒業の方々からの「会費発行事業費」のみで、このまま推移しますと財政が逼迫してまいります。

本誌をお読みの会員の皆様の周辺で同窓の方々がありましたら入会をお勧めして頂きたいようお願い申し上げます。

入会の手続を完了された方々を以下にご紹介します。会員一同は、新入会員を心から歓迎し、今後の同窓会の発展に積極的な参画を期待しております。

★ 入会された方々のお名前（2013年6月27日現在）

● 学部卒業生

宗國 祥司さん（二本研） 長谷川 肇さん（白井研）

● 大学院修了生

伊佐次 優太さん（今井研） 布施 理さん（國井研） 小川 尚人さん（杉本研）
平野 裕也さん（杉本研） 金澤 翔平さん（築山研） 水津 太一さん（築山研）
長谷川 極さん（築山研） 藤田 亮さん（築山研） 西野 佑さん（築山研）

● 既卒入会者

金子 美博さん（篠田研）

以上合計：12名

訃報 この1年間に訃報に接した方々です。謹んでご冥福をお祈り致します。

小林健一名誉教授（昭和29年卒）

大木栄二さん（昭和30年卒） 安里哲文さん（昭和31年卒） 内田 信さん（昭和32年卒）

田島雅彦さん（昭和39年卒） 三浦成尊さん（平成3年卒）

会誌発行事業費の集計報告（その12）

会誌49号発行以降に皆様から寄せられました「会誌発行事業費」について、集計結果とご協力頂きました方々及び今まで発行した会誌に記載漏れの方々のご芳名を報告いたします。尚、複数回御協力戴いた方々もおりますが初回のみのご芳名掲載と致します。

皆様のご協力で役員・幹事一同心より感謝申し上げます。今後も引き続きご協力をお願い申し上げます。

● 会誌発行事業費集計報告（2013年5月9日現在）

申込総口数：498口

申込総人数：344人

申込金額計：2,490,000円

収入金額計：2,459,800円（振込手数料20,200円差し引き後）

● 会誌発行事業費納付者ご芳名（卒業年順）

野本 勉 殿 鈴木 乙吉 殿 磯 収二 殿 蓮村 茂 殿 大野 元康 殿
橋本 雄一 殿

● 会誌発行事業費・終身会費の納付先口座のご案内

引き続き、昭和年代に学部を卒業された方のご納付をお願い申し上げます。

会誌発行事業費：1口5,000円 1口以上何口でも、

平成年代に学部を卒業された方は「終身会費（1万円）」の受付を行っておりますので、同窓で未納或いは未入会の方がおられましたらご協力お願いの声をかけて頂き、下記の口座をご紹介下さるようお願いいたします。

また、既に一度「会誌発行事業費」をご納付された方も再度のご協力を頂ければ幸いです。

【郵便振替口座】

口座番号：00130-7-752276

加入者名：中央大学理工学部電気・電子工学科同窓会

通信欄：住所・氏名・学部卒業年および「会誌発行事業費」か「終身会費」のいずれかの納付であるかを必ずご記入下さい。

【銀行振込口座】

銀行名：三菱東京UFJ銀行

支店名：春日町支店

口座名：中大電気同窓会

口座番号：（普通）0286586

注意事項：同窓会HP（<http://www.elect-chuo.com/>）「事務局への連絡」経由で

1. 振込年月日

2. 学部卒業年（年度ではありません）

3. 郵便番号、住所、自宅電話番号

をご連絡下さい。理由は、銀行口座ではお名前のみしか分からないためです。

● 同窓会ホームページ

会誌発行事業費の納付者氏名等の状況は、下記URLで逐次更新しております。

<http://www.elect-chuo.com/> から、TOP ページ > 会員の皆様へ > 会誌発行事業費 へ進む。

会計報告

平成23年度会計報告

(平成23年4月1日～平成24年3月31日)

本会計報告は、平成24年11月17日に開催された平成24年度総会にて承認されました。

平成24年度会計報告

(平成24年4月1日～平成25年3月31日)

本会計報告は、平成25年11月17日開催予定の平成25年度総会にて承認を諮る予定です。

収入の部

前年度よりの繰越金	1,962,974円
平成23年度総会会費	313,000円
預貯金利息	140円
雑収入	0円
終身会費	140,000円
寄付金	21,585円
会誌発行事業費寄付	75,000円
協賛金(修論発表会等)	90,000円
(アイコンテクノ(株)様、(株)ウッズ様、 菱沼技術士事務所様)	

収入合計 2,602,699円

支出の部

平成23年度総会費	300,000円
通信及び印刷費	377,210円
事務・運営費	15,749円
名簿関係事務費	30,000円
慶弔費	20,000円
修論同窓会賞副賞	86,400円
次年度繰越金	1,773,340円

支出合計 2,602,699円

上記、平成23年度会計報告の収支計算は、適正に表示しているものと認める。

平成24年4月26日

築山修治 印

収入の部

前年度よりの繰越金	1,773,340円
平成24年度総会会費	186,000円
預貯金利息	220円
雑収入	0円
終身会費	120,000円
寄付金	21,547円
会誌発行事業費寄付	60,000円
協賛金(修論発表会等)	90,000円
(アイコンテクノ(株)様、(株)ウッズ様、 (株)城南サービス様)	

収入合計 2,251,107円

支出の部

平成24年度総会費	200,000円
通信及び印刷費	378,301円
事務・運営費	13,986円
名簿関係事務費	38,480円
慶弔費	0円
修論同窓会賞副賞	87,628円
次年度繰越金	1,532,712円

支出合計 2,251,107円

上記、平成24年度会計報告の収支計算は、適正に表示しているものと認める。

平成25年4月17日

築山修治 印

【編集後記】

会誌編集委員会 委員長：昭和47年卒 飯塚 信市



会員の皆様並びに教職員の皆様、今年も、多数の投稿をいただき、本当に、ありがとうございます。お陰様で、会誌50号の発行に漕ぎ着けることができました。

ご承知の通り、昨年から今年にかけては、自民党政権の返り咲き、いわゆるアベノミクスによる株価上昇、参院選における自民党勝利、TPP加盟交渉の進展、等々と、政治分野並びに経済分野での大変動、それに伴う、富裕層向け高額商品の売れ行き好調の一方、ガソリンをはじめとする輸入商品の値上がりラッシュは庶民の生活を圧迫と言うわけで、はたして、このまま自立的な内需拡大や地方経済活性化に繋がればよいものの、もしも政府の経済政策が失敗に終わればどうなることかと、おそらく国民の大多数は、気を揉みつつ静観する今日この頃かと思われま

さて、本年度の同窓会誌は、従前通りの記事レイアウトに加えて、「卒業年度の枠を越えて卒業生同士が集う」という同窓会の本質を支え

る要点、すなわち「お世話になった教職員の皆さんと卒業生との思い出」乃至「郷愁」を、読者の方々をして、如何に呼び覚ますかと言った観点から、紙面構成に一部修正を加えました。

具体的には、＜教職員の皆様の自由投稿広場＞なるコーナーを新たに設けることにより、会員の70%を占める平成年度卒会員にも比較的に馴染みがあるであろうベテラン教職員の皆様並びに新人教職員の皆様からの投稿を募ることにより、昭和年代卒会員のみならず、平成年代卒会員にも、「お世話になった教職員の皆さんと卒業生との思い出」乃至「郷愁」を呼び覚まして頂くことを企図するものであります。

同コーナーは、本年度は幾分準備不足から、未だ充実するには至っておりませんが、来年度以降、教職員の皆さん、あるいは、退職された教職員の皆さんに積極的に働きかけることにより、その内容を、より充実させる所存であります。

そのような訳で、会員の皆様におかれましては、末永く、同窓会誌をご愛読いただき、ときには、同窓会総会並びに懇親会を訪れて、お世話になった先生方或いはご友人との旧交を温めて頂ければと、願う次第でございます。

中央大学理工学部電気電子情報通信工学科同窓会 会誌第50号

発行所：中央大学理工学部電気電子情報通信工学科同窓会

〒112-8551 東京都文京区春日1丁目13番27号

FAX：(03) 3817-1847

URL：http://www.elect-chuo.com/

発行日：2013年10月1日

編集人：飯塚 信市

発行人：飯塚 信市

同窓会総会・懇親会開催のお知らせ

平成 25 年度「同窓会総会・懇親会」を下記の通り開催します。本年度の総会は、昭和 57 年卒の皆さんが運営「実行委員会」を担当いたします。総会終了後に「講演会」「懇親会」を開催いたしますので、多数の皆様にご出席賜りたくご案内申し上げます。

【記】

【日時、会場、受付、会費】

日 時：2013 年 11 月 17 日（日） 受付 10:30 総会 11:00 講演会 11:30 懇親会 12:15
受 付：10:30 会場 8 F エレベータ前
会 場：丸の内 東京商工会議所ビル 8 F、東商スカイルーム
住 所：東京都千代田区丸の内 3 - 2 - 2
会 費：昭和卒 ～平成 15 年卒 ￥6,000 -
平成 16 年卒～平成 25 年卒 ￥3,000 -
ご来賓、在学生は無料

【総会・講演会】

会 場：東商スカイルーム、ルビー

総 会：11:00 ～ 11:30

講演会：11:30 ～ 12:00

講演者 1 小川博文（マツダ株式会社）

テーマ 『自動車の先進安全技術』

講演者 2 古木勝也（元ルネサス株式会社、現法政大学キャリアセンタ）

テーマ 『半導体メーカーで感じたこと、学生に伝えたいこと』

【懇親会】

会 場：東商スカイルーム、ダイニング

懇親会：12:15 ～ 14:45

返信葉書は、11月7日（火）必着でご投函下さい。

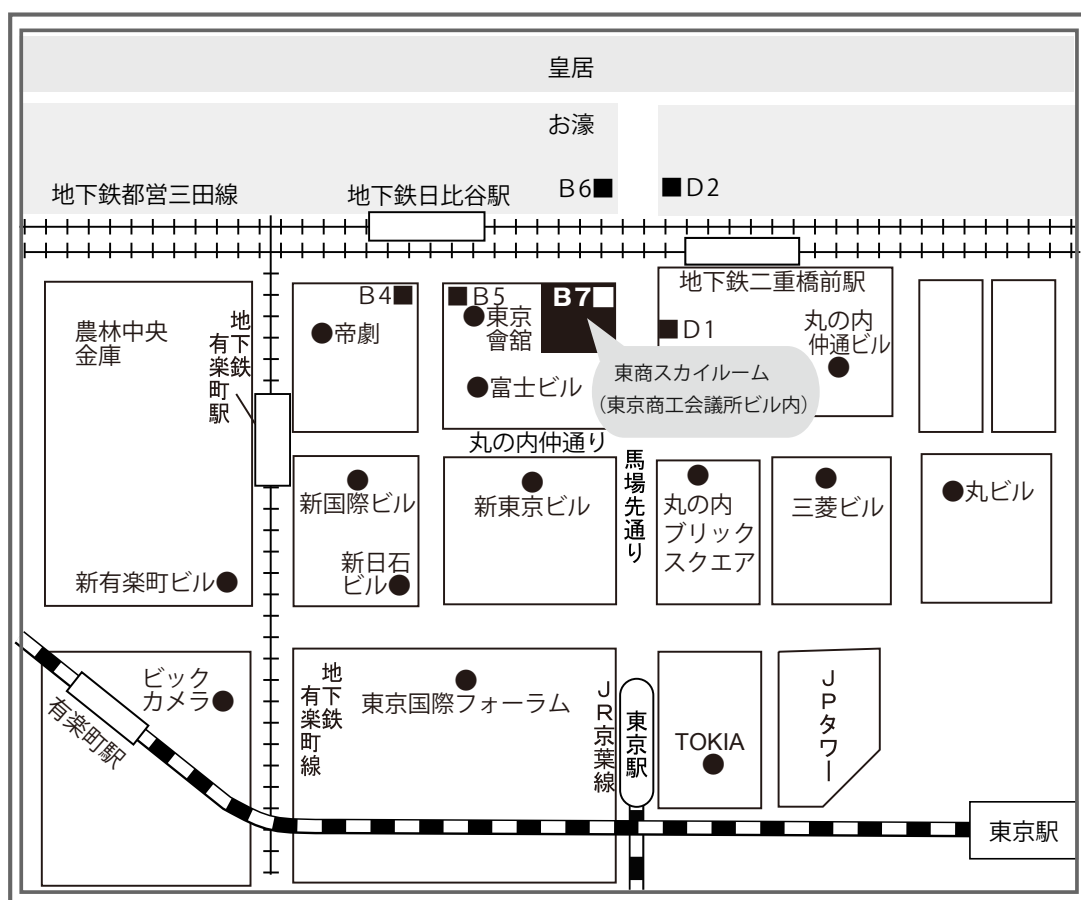
誠に恐れ入りますが、50円切手をお貼り願います。



会誌発行事業費 ￥5,000/1口（1口以上お願いいたします）を以下の郵便または銀行口座に、住所、氏名、学部卒業年（年度ではありません）をご記入のうえお振込みください。

郵便	銀行
口座番号：00130-7-752276	三菱東京 UFJ 銀行 春日町支店
加入者名：中央大学理工学部電気・電子工学科同窓会	（普）0286586 中大電気同窓会

中大電気同窓会 総会・懇親会 会場のご案内



－JR－

- ・有楽町駅 国際フォーラム側出口より徒歩 5分
- ・京葉線東京駅 5番、6番出口より 徒歩 5分
- ・東京駅 丸の内南口より 徒歩 10分

－地下鉄－

- ・千代田線 二重橋前駅
- ・有楽町線 有楽町駅
- ・三田線 日比谷駅
- ・日比谷線 日比谷駅

いずれもB5、B7出口より徒歩 0分

～ お申込み～

参加ご希望の方は、会誌に同封のハガキか同窓会ホームページからお申し込みください。
 名札を準備しますので、事前のお申し込みが必要です。申込締切日：11月7日（火）必着
 在学生は無料で参加できます。人数把握の都合があります。事前に申し込みをお願いします。
 ※ホームページからお申し込みの場合、総会・懇親会出席と明記してください。

会員の皆様の近況寄稿もお寄せください。

会誌に同封のハガキか同窓会ホームページの「事務局への連絡」をご利用ください。

会誌掲載可否も必ずご記入ください。

懇親会は午後3時頃と早めの終了設定ですので、同期や研究室の仲間と二次会など開かれては
 いかがでしょうか？